



水戸線ワンマン運転と同様ダイヤ改正以降、  
千葉支社・外房線でもワンマン運転が実施されているなか、

## お客さまがドアに挟まれ怪我をする 事象が発生！！

3月16日、外房線の2両編成のワンマン運転列車で、お客さまが降車時にドアに挟まれ怪我をした事象が発生した。運転士は、強風の影響により6分遅れで駅に到着し、ホームモニターでお客さまの乗降を確認、ワンマンドアスイッチを「閉」とし、再度ホームモニターで乗降を確認したところ、ホームでお客さま(70代男性)が転倒していることを認め、指令に連絡・対応し同駅を約9分遅れで発車した。

お客さまは降車の際、ドア開ボタンを扱い降車しようとしたが、そのタイミングで運転士がドアを閉扉したため足が引っ掛かり転倒、左大腿骨骨折という大けがを負わせてしまった。

### この事象を通して中編成ワンマン運転を考えよう！！

- 「定時運転」 = 「安全」 ではない！！
- 停車時分の30秒は何の為なのか？
- 回復運転(定時運行)のために、  
乗降促進放送(発車ベル)を省くことの危険性。
- 車載カメラでは車内(降車されるお客さま)の様子はわからない。



私たちは、十分な訓練もされないまま不安の中でワンマン運転を担っています。  
会社は「基本動作を徹底しろ！」といいますが、これまでは水戸線5両編成は車掌により、安全がしっかりと確保された中でドア扱いが行われていたましたが、それを現在、運転士一人の注意力のみで全て運行が行われているのです。基本動作だけでは補えないリスクが存在していることを認識しなければなりません。

安全を蔑ろにした「慣れ」や「定時運行を優先」する風土が醸成されてしまえば、今後、事故のリスクが高まるばかりか、万が一事故を起こしてしまえば運転士一人の過失として責任を問われてしまう可能性が高いのです！！

これまで車掌が担ってきた乗客案内や車内秩序の維持、異常時や災害時の対応、そして安全最優先でのドア扱いの重要性を再度とらえ返し、遅れを気にせず安全運転を徹底しよう！！

## 全乗務員での検証行動を行おう！！